

三和パッキング、大阪に新工場

17億円投資 電動車部品を製造

三和パッキング工業（大阪府豊中市、宮川博至社長）は、原田工場（同市）の近隣に「原田中工場」を2棟新設する。東棟は2026年7月、西棟は27年中の稼働を予定する。投資総額は約17億円。新工場ではハイブリッド車（HV）向けコンバーターカバーや電気自動車（EV）向けバッテリーケースカバーの製造ラインを新設。主要顧客である国内自動車大手の需要を取り込み、31年3月期までに新工場の電動車向け部品で売上高約8億円を目指す。

産ロボ11台導入

新工場は営業所も含め、西棟は2階建てで、国内で8拠点目となる。延べ床面積は約7500平方メートル。東棟は平屋で延べ床面積は約675平方メートル。2棟合計の従業員は約30人。産業用



ロボット11台とプレス機10台を導入するなど工場自動化を進める。三和パッキング工業はガソリン車用のガスターボエンジン（遮熱板）が主力事業で、売上高の約9割を占める。インシュレーターは一般的な鉄製に比べ重量を2割に抑えられるアルミニウム製を手がけ、軽自動車の約8割に採用されているという。新工場を機に、より断熱効果の高いステンレス製のインシュレーターの生産も月16万台で始める計画で、主力事業の強化にもつなげる。

同社は工場の自動化を進めており、2月には本社工場に産業用ロボットを7台導入し、同工場の作業人員を7人少なくした。その7人を今回新設する工場に配置転換する。海外拠点でも、11月に35周年を迎えたタイ工場に本社工場と同じロボットを導入し、省人化を進める計画だ。